

共同輸送に至った経緯と今後の取り組みについて

1. 共同輸送実施に至った経緯

平成23年5月に「徳山下松港・宇部港」が国土交通省の「国際バルク戦略港湾※」に選定された後、3社を含む港湾利用企業が主体となり設立した「山口県国際バルク戦略港湾連携協議会（以下「協議会」）」において、企業間連携による効率的な海外炭物流体制について検討を進めるなかで、このたびの共同輸送について3社の認識が一致し、本年8月5日の確認書締結を経て、実施に至ったものです。

※ 国際バルク戦略港湾

産業の国際競争力強化を目的として、バルク貨物（石炭、穀物など包装せずばら積みされる貨物）の大量輸送の実現とそれによる物流コストの低減に向け、国内の港を選定し集中的に整備するもの。

2. 今後の取り組み

今後、徳山下松港および宇部港が国際バルク戦略港湾として整備され、これまで以上に大量輸送が可能な大型船を利用できるようになることで、物流コストの低減とともに共同輸送の本格運用の実現性も高まるものと考えています。

3社においては、今回の取り組み以外にも、引き続き、協議会のメンバーと協調して、両港を活用した企業間連携を検討して参ります。



【輸送船：SAIYO号】